

申し合わせ及び注意事項

[申し合わせ事項]

本大会の競技は、2022年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則により行う。

但し、本連盟において別の定めのある場合はこの限りではない。

○ 登録・資格（会場本部コントロール事項）

1. 部長、監督、コーチ、マネージャー（主務）、トレーナー及び選手は、毎年4月30日迄に東海大学バレーボール連盟、および全日本大学バレーボール連盟に登録された者を認める。ただし、春季大会において5月31日以前に大会が行われる場合は、その試合の2日前までに大会本部（学連 web 登録）に届け出のなされた者は認める。また、秋季大会の新登録については、代表者会議迄に届け出のなされた者のみ認め、それ以降は絶対に認めない。追加登録においても、登録料納入義務が生じる。
2. 部長および選手は、監督を兼ねることができる。主将も監督を兼ねることができるが、試合中の権限の違いを十分に理解しなければならない。
3. 部長、監督、コーチ、トレーナー、マネージャー（主務）の変更は、正式届け出用紙で届け出のあった場合に限り、代表者会議においてこれを認めることができる。但し、監督、コーチ、トレーナー、マネージャー（主務）については前試合の第1セット終了までに正式届け出用紙で届け出のあった場合のみ、その試合に限り参加申込書に登録されている者の中から代理を認めることができる。
4. 東海大学バレーボール連盟に加盟している大学の2チーム以上にわたる監督、コーチ、トレーナー、マネージャー（主務）及び選手の登録はこれを認めない。但し、同一大学の男子チーム、女子チームの監督、コーチ、トレーナー、マネージャー（主務）は、両チームへの登録を認める。監督、コーチ、トレーナー、マネージャー（主務）は選手と兼ねることができる。
5. 公式記録員には審判講習会参加者のみ参加申込書に登録し、これ以外は認めない。
6. 本大会の学生審判員の活動は、東海大学バレーボール連盟公認学生審判員規定により行う。なお、チャレンジリーグの審判については当該所属チームの学生審判員が行い、その割り当てなどを、大会終了後東海大学バレーボール連盟まで報告すること。

○ 競技運営（審判コントロール事項）

1. ベンチには有効に登録された部長1名、監督1名、コーチ1名、トレーナー1名、マネージャー（主務）1名、選手14名以内の計19名以内の着席を認める。その際、監督は試合中ベンチで記録席に最も近い位置にいないといけない。但し、男子チームの女子マネージャー（主務）、女子チームの男子マネージャー（主務）は当該学生であること。部長章・監督章・コーチ章・トレーナー章・マネージャー（主務）章は各チームで揃え、必ず左胸部に付けること。又、主将章は胸中央部の番号の下につけること。各章がついてない場合は、ベンチに入ることを禁止する。
2. チームの構成人数とリベロ競技者の数について、以下のように定める。尚、下記の「正規競技者」にはリベロ競技者を含む。
 - ・正規競技者が12名以下の場合、リベロ競技者数は0名、1名、2名のいずれでもよい。
 - ・正規競技者が13名以上の場合、リベロ競技者数は2名でなければならない。
3. 背番号は参加申込用紙に登録された1番から99番までの番号とし、その変更は認めない。但し、代表者会議において正式届出用紙で届け出のあった場合に限り変更を認める。尚、1番から18番までの一連の番号を使用することが望ましい。
4. 試合前に不正な選手のエントリーが発覚した場合、不正な選手をベンチから外して試合を通常通り実施する。試合中に不正な選手が発覚した場合、当該セットを没収セットとし、試合を続行する。試合後に不正なケースが発覚した場合、不正な選手が出場した試合を没収試合とする。未然に防止するため、正しいエントリーになっていることを本部で確認、エントリー選手とコート上の選手に齟齬がないか、審判団（副審・記録員）で確認する。ただし、ミス自体は該当チームの責任とする。
5. 自主運営の各部については別に申し合わせ事項を決定することができる（競技委員長・学連執行部に連絡）。
6. 試合形式
 - ・セット形式
 - ☆5セットマッチ・・・・・・・・・・男女1部、男女2部
男女1部・2部、2部・チャレンジ入替戦
※コイントス：公式ウォームアップ前の記録席前にて。
 - ☆3セットマッチ・・・・・・・・・・チャレンジリーグ、チャレンジリーグプレーオフ

※コイントス：公式ウォームアップ前の記録席前にて。

7. 試合開始設定時刻

☆全ての試合に設定・・・・・・・・・・・・・男女全ての入替戦

☆第1試合のみ設定・・・・・・・・・・・・・上記以外の試合

※第2試合以後のプロトコール時刻

男子1部、男子2部、女子2部・・・・最大40分(両チームの話し合いのもと決定する)

※6チーム制の場合、試合間を20分とする。

女子1部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・最大60分(両チームの話し合いのもと決定する)

チャレンジリーグ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15分後

男女全ての入替戦・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15分後

・尚、雨天時の場合、男子1部、男子2部以外については10分拡大する。

8. 男女1部の試合で放送施設のある体育館に限りアナウンスを付け、マッチナンバー、対戦カード、主審・副審の紹介をする。

9. 原則として、試合開始のホイッスルより15分経過しても選手が6名に満たない場合は、そのチームは棄権したものとみなす。但し、遅刻について正当な理由がある場合は柔軟に対応する。なお、その間のコート内での練習は主審の判断で認める。

10. チーム役員 の 服装

・試合中、ベンチに入るチーム役員は、ジャケットを着用するか、チームで統一されたトレーニングウェアを着用しなければならない(部長・監督がジャケット、コーチ・トレーナー・マネージャー(主務)がトレーニングウェアを着用してもよい)。

・プレーヤーと違うトレーニングウェアを着用する場合は、チーム役員は統一されたものを着用すること。また、ベンチに入るチーム役員が学生ではない者と学生の場合は学生ではない者と学生で服装が違っていても良いが学生でない者同士、学生同士で統一すること。もし統一されていない場合については競技委員長、審判委員長の協議のもと判断する。

11. 原則として、公式練習時にメンバー以外の役員、選手は参加できないが、エントリーされた選手以外に最大8名のボールコレクターをアリーナ内に出すことを認める。又、ボールコレクターは、ユニフォームを着用しないこと。チームで統一された服装(チームウェア)を着用すること。(両チーム8名までとする)

※ボールコレクターは公式練習に参加(ボール渡し等のプレーに一貫する行為)することはできない。

12. 競技中にタイムアウトの要求が出来るのは、ベンチにいる監督と監督不在時にコート上にいるゲームキャプテンだけである。尚、審判及びゲーム内容について質問出来るのは、コート上のゲームキャプテンのみである。なお、サブスティテューションは、クイックサブスティテューションで行うため、サブスティテューションの要求は、ベンチの監督・コート上のゲームキャプテンによるハンドシグナルではなく、プレーの準備ができた交代選手が、選手交代ゾーンに入ることで成立する。

13. ユニフォームについて

・ユニフォームのデザインはチームで統一(リベロ・プレーヤーを除く)されていなければならないが、ユニフォームの袖の長さはチームで統一されなくてもよい。

・リベロ・プレーヤーのユニフォームは、他の競技者とははっきりと区別がつくものでなければならない。(審判よりどの方向から見ても見分けがつくものとし、紛らわしい配色やデザインものは禁止とする。)

・ソックスは長さや色が統一されたものを着用しなければならない。(但し、ワンポイントのデザインが違う程度であれば着用を認める)

・ハイネックのアンダーウェアもユニフォームの一部である為、チームで統一して着用していない場合ユニフォームから明らかにはみ出しているものは着用を認めない。

・ユニフォームのショートパンツからはみ出したパワーパンツは禁止する。また、ユニフォームの上から腰に巻くようなゴムのベルトやプロテクターは、明らかに色が違う場合には、ユニフォームの下に着用すること。

14. コートオフィシャルの服装についてはチームで統一すること。

15. クイックモップ制(副審コントロール事項)

・試合中のワイピングはコートの選手で行うことを原則とするが、ワイパー専門の2名を置くことを認める。但し、ユニフォームは着用しないこと。

・待機場所は1名は記録席のすぐ隣り、もう1名は自チームのベンチ最後部とし、低い姿勢で待機し、コート内に汗等が付着した場合には、素早くワイピングタオルで拭き取りコート外に出ること。又、セット間、タイムアウト間にモップでコートを拭き取ることを認める。

- ・クイックモップが応援、及びチームのマネージメント行為（ドリンク、アイシング作り、荷物運び等）をすることは一切禁止とする。また、チーム事情によりクイックモップを出す事が不可能な場合はコート上の選手が、各自ワイピングタオルを持ち拭き取ること。
 - ・試合中のモップ使用に関しては、副審の指示に従う。副審の指示なしに、モップを勝手にコートに入れてはならない。また、コート外の選手がユニフォームでモップ掛けしてはならない。
16. タイムアウト中は事故防止の為、必ずモップ掛けをすること。尚、原則としてクイックモップがいるチームはクイックモップが行い、不在のチームに関しては選手が行うものとする。
 17. クーラーボックス、ボトル、救急箱等はベンチの後ろに置くこと。
 18. 次の試合の選手、役員は試合終了の挨拶が終了するまでアリーナに入ってはならない。又、待機中ボールは絶対にボールゲージから出してはならない。（ボールを持つことも禁止とする）
 19. 男女 1 部のチームは、原則として開・閉会式に参加しなければならない。入場メンバーは当日のエントリー選手 14 名以内（プラカード持ち、部旗手を含む）とする。
 20. プロトコル前には、その試合の審判、副審、記録員、線審、点示員は指定された場所に集まり事前ミーティングを行うこと。なお、この時の記録員、線審、点示員はチームと別組織とし、一審判団として形式される。
- ※ 以上の事項に違反した場合は、理事長・大会委員長・競技委員長の会議により処置を定める。

<注意事項>

- ① トスは必ず各チームの主将がユニフォームを着用して行う。各チームは早めに集合場所に集まること。
- ② 会場に到着したチームは直ちに本部受付にその旨を連絡すること。
- ③ 各チームルールブックを熟読し試合運営の円滑化に協力すること。
- ④ 記録、線審のミスは極力しないこと。
- ⑤ 机、椅子などの指定以外の持ち出しは厳禁とする。
- ⑥ 大会会場は混雑するので盗難予防の為、所持品は各チームが責任を持って管理すること。
- ⑦ 喫煙、飲食等については、その会場の規則に従うこと。
- ⑧ ガラス、照明等の会場の一部を破損した時は、その旨を本部に連絡すること。
- ⑨ 各チームの控え場所は必ず掃除をして会場をでること。
- ⑩ ベンチには部旗（矢尻をはずしたもの）、飲料、救急用具等の必要品以外の物を持ち込むことを禁止する。
- ⑪ ゲーム中のボールデットの処理は線審の手をわずらわすことなく選手間で行う。なお、5 セットマッチにおいては原則として 5 ボールシステムを採用する。
- ⑫ リベロベストの着用は 1 部リーグでは認めない。2 部リーグ以降は原則として認めない。
- ⑬ ユニフォームのナンバーは、胸部の高さは、最小限 15 c m、背部の高さは最小限 20 c m のものでなければならない。ナンバーの字幅は、最小限 2 c m である。
- ⑭ 施設、設備の不備によるケガ等については、運営主体である各部署で責任をとること。
- ⑮ 審判及び監督は試合終了後、お互いに敬意を払って挨拶（握手）を心掛けること。

<附則：危険管理システム>

- 1) 何事も安全第一、特に参加学生の安全確保を最優先に考える。
- 2) 台風の影響が予想された段階で、基本方針の発表。
- 3) 判断基準は、東海地方への暴風警報の発令と解除を基準とする。その他、会場となる大学等の規則および判断、公共交通機関の運行状況も考慮する。また、直撃が免れないと判断した場合は、できるだけ早い段階で中止を決定する。
- 4) 定時連絡は、次の時刻を基準に行う。
 試合前日 午後 1 時、午後 11 時
 試合当日 午前 5 時
- 5) 事前による中止決定がなされた場合、たとえ、その後暴風警報が解除されても、その日は中止とする。
- 6) 当日、試合開始後、暴風警報が発令された場合、中止とする。中止決定については、リーグ戦運営委員→担当学連委員→担当競技委員→競技委員長→理事長の連絡を基本とし、理事長決裁とするが、中止権限については競技委員長段階で行うことも可能とする。
- 7) 中止された試合、その後に調整を速やかに行うために、対策本部または、調整本部（理事長、副理事長、競技委員長、審判委員長、総務委員長等）を立ち上げ、連絡調整を図る。

2022年03月11日 改訂